

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王西小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられます。「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関しては、全国平均正答率を上回っています。特に「書くこと」に関しては、全国平均を大きく上回っており、「文章や資料などを要約して書く」、という力が定着しています。一方で「自分の考えをまとめて書く」という出題に関しては、正答率が低く、苦手意識が見られます。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」に関しては、正答率が全国平均よりも低いです。理由としては、言葉の意味を正確に理解していないことが考えられます。
- ・算数の平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられます。特に「図形」については、全国平均正答率と比較して、上回っている問題が多く見られました。一方、「変化と関係」に関しては、全国平均正答率と比べて大きく下回っており、「変化の仕方を言葉で説明する」ということに対して課題が見られます。また「数と計算」の領域では、「割り算の筆算を別の方法で説明する」という設問も正答率が低く、計算などはできるが、その意味を正確に理解している児童が少ないことが明らかになりました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「学校に行くのが楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことに取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均に比べて高いです。
- ・課題となる項目
「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が、全国平均に比べて低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・よい傾向を維持するために、子ども達自身が学級の課題に対しての解決策を考え、一人ひとりが努力できるよう、学級活動や道徳の時間を大切に、互いに認め合える集団づくりに取り組みます。
- ・宿題等を通して、授業で習った内容を復習し、基礎基本の定着を図るとともに、言葉の意味や、四則計算の意味などを理解できるようにします。
- ・授業において、端末を積極的に活用し、協働的に学ぶ機会を設け、自分の気持ちや考えなどを表現する機会を取り入れます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・年度当初に配布しました「家庭学習の手引き」を参考にいただき、今後も引き続き、お子さんの頑張りについて励ましの声を掛けてください。
- ・家庭学習の時間を確保するとともに、持ち帰りをした端末を学習のために適切に使っているかお子さんと話したり、家族の中で話題にしたりしてください。
- ・ニュースや新聞記事等について家庭の中で話題にするなど、お子さんが時事問題に興味をもったり、自分の考えを持てたりするような機会を作ってください。